



北白川宮能久親王像（北の丸公園）

## 日台稲門会 ニュースレター1月号（2022年1月14日発行）

日台稲門会会員・会友の皆様

日台稲門会ニュースレター1月号をお届けします。

### 1. 挨拶（三村達 会長）

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は会員・会友の皆様にはいろいろとお世話になりありがとうございました。今年はコロナウイルスの状況を見ながら少しでも日台交流に役立てる活動を行っていきたいと思います。

今年も日台稲門会に対し、ご支援ご協力の程よろしく願いいたします。



### 2. 台湾からの便り 台北稲門会より（斎藤征二さん）

今月の台湾斎藤さんからの寄稿です。

12月18日（金）に台湾全土で住民投票が行われました。

住民投票では

- ① 「桃園市で計画されている第3 LNG受け入れ施設の建設場所変更に同意するか」
- ② 「台湾第4原子力発電所（新北市）の商業運転停止解除に同意するか」
- ③ 「飼料添加物のラクトパミンが含まれる豚肉の輸入の全面禁止に同意するか」
- ④ 「住民投票と全国規模の選挙を同じ日程で行うことに同意するか」

の4項目について民意が問われました。

- ① については賛成 390 万 1,171 票、 反対 416 万 3,464 票
  - ② については賛成 380 万 4,755 票、 反対 426 万 2,451 票
  - ③ については賛成 393 万 6,554 票、 反対 413 万 1,203 票
  - ④ については賛成 395 万 1,852 票、 反対 412 万 38 票
- という結果でした。(投票率は約 41%)

③が否決となったことで、対米関係にも良い影響があることから台湾政府は T P P 加入に向けた取り組みを進めるとみられます。

経済部は「台湾人が国際社会との経済・貿易面での連携に強い期待を抱いていることが示された」と総括し、T P P への加入に向けて努力を続けると説明しました。

台湾政府は T P P への加入に当たって、日本側と福島産食品などの輸入禁止措置について話し合う考えを示しています。

19 日付自由時報によると、台湾の大手民間シンクタンク、中華経済研究院（中経院）W T O・R T A 中心の顔慧欣副執行長は福島産食品について「段階的な開放に向けて話し合いを始めるべきだ」と提言しました。少しずつですが、良い方向に進みそうです。

<メモ>

台湾の住民投票

住民投票法（公民投票法）が 03 年 12 月末に施行されて以降、今回を含めて 5 回計 20 件を対象に行われた。内訳は 7 件が可決、13 件が否決。同法の規定では住民、行政院、立法院（国会）、総統が住民投票を提起でき、満 18 歳以上の住民が投票権を持つ。有効な賛成票が反対票を上回り、かつ賛成票が有権者の 4 分の 1 に達した場合、可決となる。有効な賛成票が反対票を下回った場合は否決。今回の住民投票はもともと 8 月 28 日に予定されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を理由に延期されていた。

### 3. 日台稲門会出身の俳優、松尾淳一郎さんよりの新年挨拶

TV ドラマで大活躍の松尾淳一郎さんより新年の挨拶がありました。

日台稲門会会員・会友の皆様

新年明けましておめでとうございます。

本年も、昨年同様、何卒よろしくお願ひ



「ひきこもり先生」寺山八郎 役（美術教師）

写真：【ドラマキャスト Livedoor】より引用

申し上げます。

2022年ももう6日も経ってしまいましたが、皆様におかれましては元気でお過ごしでしょうか？私は、本日より仕事始めで、運よくドラマの撮影が入ったため、芝居始めともなりました。外は大雪ですが、役者としても新年のスタートを切れたので、とりあえずは良かったです。2021年は東京オリンピックもありましたが、なんといってもコロナに振り回される、混沌とした年でした。2022年に入り、さぁ新年！と思ったら各地で感染者数が増え、その報道に煽られるように、再びまんぼうや緊急事態宣言が出されそうな雰囲気のため、危惧しております。ただ、例えどんな状況に陥ろうとも自分が信じた道を突き進めるよう、強くありたいものだと思っています。コロナ禍ではありますが、合気柔術や殺陣、アクションの稽古は継続しており、仕事で使う機会も少しずつ増えてきました。語学もそうですが、何事も“継続は力なり”だと、改めて思います。

なお、下記は、2021年に出演した作品一覧です。

- ・日本テレビ「真犯人フラグ」第4話・第7話・第10話・第11話 記者役 (2021.11~2022.1)
- ・NHK 土曜ドラマ「ひきこもり先生」レギュラー出演 美術教師：寺山八郎役 (2021.6~7)
- ・NHK 大河ドラマ「青天を衝け」第8話・第10話・第12話・第29話・第30話 (2021.4~5/2021.10) 肥田浜五郎役

NHK の作品に出演する機会も多く、話題作にレギュラーで出演できたことは、自分にとっても大きな収穫となりました。



日本テレビ「真犯人フラグ」



NHK「青天を衝け」

やはり、現場にいないと学べないことや感じるができないことが多いため、共演者の方々から沢山のボールを受けて、それを大切に投げ返せるよう心がけて、一作一作大切に演じております。2022年も既に撮り終えた映画とドラマが1作ずつあるので、少しでも多くの作品に参加できるよう、本年も精進したいと思います。

コロナの影響で、人の行き来が制限されている為、中国や台湾との合作案件はどれも一時中断しており、大変もどかしい状況ではありますが、この間をただ耐え忍ぶだけでなく、更に深化したいと思っております。

PS

釣りと料理も継続中です。釣って捌いた魚は、刺身、煮つけ、から揚げ、天ぷら、漬け、塩焼き、干物、あら汁、余すところなく頂きます。今年は燻製にもチャレンジしてみたいと思っております。釣りにご興味ございましたら、是非ご一報ください。(笑)



#### 4. 経済ニュース(劉彦甫 記者)

今月も劉彦甫さん（WTSA 出身で現在東洋経済新報社記者）の署名記事を紹介します。

##### ■村田製作所、「部品の王者」に幹部が抱く危機感

「あぐらをかいて滅びる企業」にはならない 劉彦甫：東洋経済 記者（2022/1/4 東洋経済）

過去最高の利益を出しても現状に満足しない村田製作所。2030年には1,000億円規模の新規事業を作り出したいとする。その展開について岩坪浩取締役専務執行役員に聞いた。

<https://toyokeizai.net/articles/-/478800>



## ■村田製作所が攻める「最強の電子部品」以外の金脈

### 最高益でもあえて挑む「モノ売り」モデルの変革

劉彦甫：東洋経済 記者（12/21 東洋経済）

2021年3月期は売上高1兆6301億円、営業利益3132億円とそれぞれ過去最高を更新。直近決算での営業利益率は24.4%に達し、製造業では屈指の高収益企業となった電子部品国内最大手の村田製作所。現状に甘えることなく、企業経営を「手遅れ」にならないうちに変革しなければならないという危機感を中島規巨社長は持つ。

<https://toyokeizai.net/articles/-/477356>



## ■永守重信「高学歴と仕事の良しあしは全然関係ない」

### 日本電産創業者が大学運営に本気で取り組む意図

武政 秀明：東洋経済オンライン編集部長 / 劉彦甫：東洋経済 記者（12/10 東洋経済）

独特の経営哲学を持つ永守氏。今の日本は、職業観や人生観を作り上げる教育がなくなり、大学に合格するためだけの受験テクニックが教育の中心となっていると痛烈に批判。2018年に京都学園大学の経営を引き継いで理事長に就任し、翌2019年には京都先端科学大学に改称して、本格的に大学教育の改革を始めている。その思いを述べている。



<https://toyokeizai.net/articles/-/474056>

## 劉記者の記事一覧 下記サイトを参照

<https://toyokeizai.net/list/author/%E5%8A%89+%E5%BD%A6%E7%94%AB>



## 5.早稲田大学台湾研究所よりの講演案内

台湾研究所より講演の案内が来ました。

早稲田大学台湾研究所ワークショップ「誰の台湾史——生きられた歴史からの問い」

◆日時：2022年1月29日（土）14時～16時

◆場所：YouTubeによるリアルタイム配信（※アーカイブ配信はありません）

◆主催：早稲田大学台湾研究所（主催）、日本台湾学会定例研究会（共催）

◆登壇者：洪郁如（一橋大学社教授）、北村嘉恵（北海道大学准教授）

◆趣旨説明：新田龍希（早稲田大学台湾研究所・次席研究員）

◆参加方法：参加費無料。以下リンクより参加登録をお願いします（1月22日 締切）。

参加登録者にはワークショップ前日までにYouTube及び質問フォームのURLをメールで

お知らせします。<https://forms.gle/HNABM7QZTkZWY1FY9>



◆問い合わせ先：早稲田大学台湾研究所 新田龍希（nitta@aoni.waseda.jp）

◆趣旨：

早稲田大学台湾研究所では「誰の台湾史——生きられた歴史からの問い」をテーマに、洪郁如さんと北村嘉恵さんの対談を実施します。

洪郁如『誰の日本時代』（法政大学出版局、2021年）は、「台湾を知る」営みが新たな段階に入っている。台湾のいまを知るためには、台湾の過去、日本が深く関わった時代に正面から向き合う作業が避けて通れない」という問題提起から始まります。洪さんは同書でこれまでの歴史において不可視化ないし軽視されてきた主体、とりわけ「周縁化された多数」に関心を寄せ、彼ら／彼女らの植民地統治、近代教育、戦争、「戦後」の経験に対する理解を試みています。

『誰の日本時代』が提起した様々な問題をめぐって、台湾先住民教育史を核として、植民地下に生きた人びとの歴史経験、教育経験を考えてこられた北村嘉恵さんに対談者をお願いしました。

台湾史研究にとどまらない、歴史経験や歴史記憶、歴史叙述のこれからを考える、刺激的な場となるはずです。皆様ふるってご参集ください。

◆登壇者：

洪郁如：一橋大学社会学研究科・教授。

主著として『誰の日本時代』（法政大学出版局、2021年）、『近代台湾女性史』（勁草書房、2001年）、『台湾史論叢女性篇：性別与権力』（国立台湾大学出版中心、2020年、編著）ほか。

北村嘉恵：北海道大学教育学研究院・准教授。

主著として『日本植民地下の台湾先住民教育史』（北海道大学出版会、2008年）、「植民地社会のなかの修学経験」（『歴史評論』857号、2021年）、「試探台南新化楊岡之生命歷程：20世紀前期台湾女性的就学与教育経歴」（『歴史台湾』17期、2019年）、「台湾先住民の歴史経験と植民地戦争」（『思想』1119号、2017年）ほか。

## 6. 注目の台湾関連本紹介

洋泉社刊（2015.6.17刊）（1,980円）（送料・税込）

表紙は、昨年出版された『台湾を築いた明治の日本人』（渡辺利夫、産経新聞）とよく似ているが、内容は、台湾の近代化に貢献した日本人だけでなく、日本時代に建てられた建物が、まだこんなにたくさん残っているのかと驚きます。



## 7. 日本のお土産

先日、YouTubeで台湾の若い女性がやっている「台湾人の嫌いな日本のお土産」ベスト3という番組を見た。自分の経験から羊羹は絶対入ると思ったが、順番で言うと①生八つ橋、②最中、③饅頭とのこと。生八つ橋は、甘過ぎる上にニッキの匂い（香り）が受け付けられないとのこと。②と③はこれまた甘すぎるとのこと。最中の皮は喉にへばりつくような感じであるとか。また抹茶ならいいが、台湾では緑茶も甘いことがあり、あんこの甘さが中和されないので茶とは合わないとか。ほかに東京ばなな、銀座の苺ケーキ、ひよこ、ずんだ餅も挙がっていたが、（ずんだ餅を除けば）食べ飽きたためだと思われた。昔、ケントギルバートさんが、『日本のケーキは甘くない。アメリカのものは砂糖のかたまりのような甘さがある』と言っていたが、台湾の人がアメリカのケーキを食べたらどうなるか、いつか聞いてみたい。

## 8. 大国(インドと中国)に挟まれた小国 (橋本紀明)

時々、インドと中国のカシミール紛争が話題になるが、以前は両国の間に多くの小国(王)があった。インドに駐在した当初、子供のころから知っていた北インドにあるシッキム王国に行ってみたいと思ったが、1975年にインドに併合されてインドの一州となっていたことを知った。1963年シッキムの最後の王が即位すると王妃がアメリカ人であったこともあり、親王派と親インド派の対立が起こり、インド軍の介入を許してしまい、王制が廃止され(1975)、共和制に移行。その後、ネパールからの移民が多数(住民の75%も)入り、国民(住民)投票でインドの一州となった。その際、シッキムの宗主国はチベットだったこともあり、インドが未承認だった中国によるチベット併合を承認する見返りとして、インドのシッキム併合を中国に認めさせた。同じく王制だったネパールは、2001年に王の甥が、王、王妃、王女等を殺害。代わって父親(王の弟)のギャネンドラが国王となったが、国内治安の悪化を招き、2008年に国民投票で王制が廃止され共和制となった。現在は、親中国派(毛沢東武闘派)と親インド派の主導権争いが激しくなっている。(インドは、ネパール人にビザなし労働が可能な内国人待遇を与えて引き入れを狙い、中国は武力による併合を狙っているが、インドの方が優位に立っている。)

ブータン王国は、現国王の人気もあり現在、治安は安定しているが、それでも少しずつ中国の領土侵攻は進んでいる。こちらも、将来、王家に対する国民の不満が高まれば、王制廃止→共和制となり、中国かインドの介入を許すものと思われる。外国人の移住を許したら人口構成が大きく変わり、国内世論も隣接大国寄りとなるため、ブータンは鎖国政策を緩めることはできないと思う。注意しないと、シッキムの二の舞になる。そしてこれまたシッキム・チベットのように、ネパールをインドがとる代わりに、中国のブータン併合を認め、両大国の山分けとなる可能性もある。

台湾を見た場合、人口的にも地政学的(経済的)にも重要度はネパールやブータンの比ではないため、武力で中国が台湾を獲得することは、①日米を含めた西側(自由)諸国の武力介入を招くこと、②大国(中国、インド)の山分けの対象とならないこと(ロシア→朝鮮半島、中国→台湾と動いたら、19世紀末のようになる可能性はある)、③現状も国内世論は反中国となっていることから現実問題として時間をかけたとしても(ネパールやブータンほど)併合は簡単ではないと思われる。ただし、中国に対する経済的依存大→中国人移住の緩和政策を進め、世論が親中国に変化した場合はどうなるか分からない。とにかく、相手は超長期で考えるため、要注意である。これらは私の勝手な個人的意見であるが・・・。

## 編集後記

正月、皇居周辺を歩きました。昨今、万世一系維持の議論がありますが、皇居周辺に数ある銅像の中でも（民間である）道鏡の天皇即位を止めた和気清麻呂像と足利尊氏との戦いで後醍醐天皇を守った楠木正成は別格の扱いを受けているように思えた。また北の丸公園横に建っている、台湾とも関係があり旧竹田宮家の先祖である北白川宮能久親王像（巻頭写真）も気になりました。大学1年の頃、1回だけ訪れた北の丸公園を四十数年ぶりに訪れたら、いつの間にかきれいな森林になっていて驚いた。（橋）